## CuAlS<sub>2</sub>:Mn 蛍光体薄膜における Si 添加による発光特性の改善 Improvement of Luminescent Characteristics by Si doping for CuAlS<sub>2</sub>:Mn Phosphor Thin Films

鳥取大学大学院 工学研究科<sup>1</sup>, TEDREC<sup>2</sup>

○川口 英紀<sup>1</sup>, 大島 祐樹<sup>1</sup>, 大観 光徳<sup>1,2</sup>

<sup>O</sup>Hideki Kawaguchi<sup>1</sup>, Yuki Oshima<sup>1</sup>, and Koutoku Ohmi<sup>1,2</sup>

Tel: (0857)31-6700 E-mail: ohmi@ele.tottori-u.ac.jp

## 【背景】

我々は白色 LED 用 CuAlS<sub>2</sub>:Mn 赤色蛍光体の研究を行って きた。この蛍光体は CuAlS<sub>2</sub>母体から Mn<sup>2+</sup>へ効率よくエネル ギーが伝達され、Si と Mg を共添加した試料ではバンド端励 起で外部量子効率として約 64 %を得ている。この優れた CuAlS<sub>2</sub>:Mn 粉末蛍光体を活用した発光デバイスの開発を目指 し、電子線蒸着法により蛍光体薄膜の作製を検討してきた。 これまでに、導電性を有し比較的強い PL 発光を示す薄膜の 作製に成功している。[1] しかし内部量子効率は約 3%と低 く、更なる改善が必要である。本研究では、粉末試料で発光 特性の改善効果が確認されている Si に着目し、Si を添加した CuAlS<sub>2</sub>:Mn 薄膜の作製を検討した。[2]

## 【素子作製方法】

蒸着源ペレットに用いる CuAlS<sub>2</sub>:Mn 粉末蛍光体は、原材 料 Cu<sub>2</sub>S, Al<sub>2</sub>S<sub>3</sub>, MnS, S, Si を組成比 Cu<sub>0.75</sub>Al<sub>0.95</sub>(Si<sub>0.05</sub>)S<sub>2.1</sub>:Mn<sub>0.05</sub> に基づいて秤量・混合し、Ar 雰囲気中で1100 ℃、1 時間の 焼成を行うことにより作製した。焼成後に同粉末蛍光体を加 圧成型することにより蒸着用ペレットを得た。このペレット を用い電子線蒸着法により石英基板上に CuAlS<sub>2</sub>:Mn 薄膜を 300 nm 堆積させた。成膜時の基板温度を 600 ℃とした。

## 【実験結果と考察】

Figure 1 に作製した試料の X 線回折パターンを示す。29<sup>°</sup> 付近に強い回折ピークが確認され、これは CuAlS<sub>2</sub>の ICSD パ ターン(112)面に一致する。また半値幅は 0.18<sup>°</sup> と小さく、優 れた結晶性を得た。

Figure 2 に同試料のフォトルミネッセンス(PL)、PL 励起 (PLE)スペクトルを示す。図より、340 nm 励起で 600 nm 付近 にピークを持つ橙黄色発光を示すことが分かる。これは Mn を Cu サイトに置換させた粉末蛍光体の発光特性に類似して おり、大部分の Mn は Cu サイトに置換していると考えられ る。Si 無添加の薄膜と比較して発光強度が増加している。PLE スペクトルでは、375 nm 付近に CuAlS,母体のバンド端励起 に対応した急峻な立ち上がりが見られる。挿入図に 400-500 nm を拡大した PLE スペクトルを示す。475 nm 付近のピーク は $Mn^{2+}$ の $3d^{5}-3d^{5}$ 遷移 ( ${}^{6}A_{1} \rightarrow {}^{4}A_{1}, {}^{4}E$ )による直接励起帯であり、 Si を添加することで Mn の付活が促進されたと考えられる。 Siは格子歪を緩和する効果が粉末試料において確認されてお り、薄膜においても同様の効果が生じたと考えられる。[2] Si を添加した薄膜での内部量子効率は9%であり、無添加薄膜 の3%に比べ大幅に向上している。SiやMnの添加量を見直 すことで、更なる量子効率の向上が期待される。

Figure 3 に同試料の透過スペクトルを示す。375 nm 付近に CuAlS<sub>2</sub>母体の吸収による吸収端が見られ、これは PLE スペク トルとも対応している。可視波長域の透過率は約 70-80%であ る。400-500 nm には母体欠陥によると思われる吸収が見られ、 更なる結晶性の改善を要する。Cu(Al,Ga)S<sub>2</sub>混晶とすることに より吸収端の長波長化も可能である。そのため今後、量子効 率や透過率が改善されれば、太陽電池パネル用の波長変換膜 としての応用も期待できる。

[1] 大島 他、第 60 回応用物理学会春季学術講演会 29a-G5-10



Fig. 1 X-ray diffraction patterns of Si-doped CuAlS<sub>2</sub>:Mn thin film.



Fig. 2 PL, PLE spectra of undoped and Si-doped CuAlS<sub>2</sub>:Mn thin films.



Fig. 3 Transmittance spectrum of Si-doped CuAlS<sub>2</sub>:Mn thin film.

<sup>[2]</sup> Y. Miyamoto, et al., Jpn. J. Appl. Phys., 50 (2011) 102401.